

また、中障害飛越競技 B では長崎国体にも出場した 3 人のジャンプオフとなりました。国体のスピード&ハンディネスに出場した梅田敬仁選手（初級資格：八王子乗馬倶楽部）がエタジュニ号と共に減点 0 でフィニッシュラインを通過。次にトップスコア競技 4 位に入賞した人馬、中村勇選手（上級資格：北勢ライディングファーム）とケアフル号がタイムを更新してトップに立ちました。最後はダービー競技優勝人馬の仙波勇選手（中級資格：ホースライディングスクエア エボルブルス）とアラモード Z 号でしたが途中でリタイアしてしまい、中村選手の優勝が決まりました。また、内国産奨励賞は駒津真希選手（初級資格：栃の葉乗馬クラブ）とカリズマウィッシュ号（福島県産サラブレッド・10 才・カリズマティック×ニシノヴァージニア）が減点 4 で受賞しました。

《各競技の優勝人馬》

photo提供 株式会社ユナイテッドフォトプレス



馬場馬術種目



障害飛越種目

第 1 競技 複合馬術競技

篠原正紀 & ルップランド

（八王子乗馬倶楽部）

北海道産 サラブレッド 10 歳

競走馬名：ヘンリーゴンドーフ

父：ドリームウェル

母：クルーピアレディー

中央競馬 21 戦[2-6-2-11]



第 2 競技 新馬馬場馬術競技

斉藤裕己 & ウィルアップパー

（ウィルスタッド）

北海道産 サラブレッド 6 歳

競走馬名：アップパーイースト

父：マンハッタンカフェ

母：ココパシオン

中央競馬 7 戦[2-0-0-5]



第3競技 スポーツホース馬場馬術競技

萩原克庸 & パークビューパナメーラー

(ホースライディングスクエア・エホールブルス)

茨城県産 日本スポーツホース 9歳

生産時名：(同名)

父：パークビューバグス

母：ケイアイモーション

生産者：ホースライディングスクエア・エホールブルス



第4競技 レースホース馬場馬術競技

佐藤靖子 & ヘレス

(八王子乗馬倶楽部)

北海道産 サラブレッド 19歳

競走馬名：ミデオンゲッコウ

父：ミルコウジ

母：ワイドゲッコウ

地方競馬 47戦[6-4-5-32]



第5競技 M1課目馬場馬術競技

浅沼菜穂美 & バルデュ・ドラゴン

(町田乗馬センター)

オランダ産 KWPN 11歳

父：NUMERO UNO

母：NANNIE



第6競技 新馬障害飛越競技

鯨岡啓昌 & シャーロット

(東関東ホースパーク)

北海道産 サラブレッド 6歳

競走馬名：ニットウマオ

父：タイキファイヤー

母：ニットウジャンヌ

地方競馬 27戦[0-2-1-24]



第7競技 スポーツホース障害飛越競技

加藤 正 & ロマン・サウス

(平塚乗馬クラブ)

岩手県産 日本スポーツホース 10歳

生産時名：(同名)

父：フロドラジェルベーズ

母：セイユウロマン

生産者：菊地親雄



第8競技 レースホース障害飛越競技

内藤隆徳 & シェルメアー

(乗馬クラブクレイン大阪)

北海道産 9歳

競走馬名：アヤヒメ

父：スウェプトオーヴァーボード

母：アッサンブレ

中央競馬 6戦、地方競馬 17戦 2勝



第9競技 中障害飛越競技C

萩原克庸 & ビッグビレッジ

(ホースライディングスクエア・エポルブルス)

北海道産 8歳

生産時名：ドーキ 2001

父：パンサー

母：瞳輝

生産者：大下一信（釧路市）



第10競技 セントジョージ賞典馬場馬術競技

浅沼菜穂美 & パルデュ・ドラゴン

(町田乗馬センター)

オランダ産 KWPN 11歳

父：NUMERO UNO

母：NANNIE



第11競技 中障害飛越競技B

中村勇 & ケアフル

(北勢ライディングファーム)

ドイツ産 オルテンブルガー 13歳

父：Carnute

母：Loving Star



優勝 武宮匡宏選手



第2位 後藤浩二郎選手



第3位 芦澤博之選手



第4位 加藤順一選手



第5位 山下正行選手



第6位 高橋尚裕選手



第7位 北原広之選手



第8位 松本謙選手



出場選手

【チームトップスコア】

この大会で恒例となりましたこの競技は、国体等で行われるトップスコア競技をプロとアマチュア、あるいはアマチュア同士がチームを組んで得点を獲得する種目です。ジョーカー障害（プロ選手は200点、アマチュア選手は300点）は2回まで得点の対象で、それ以外の障害物は何回

飛んでも加点されます。

出場チームの一部は、前日行われた 100cm クラスの上位入賞のアマチュア選手が出場権を獲得して、懇親会時に抽選を行いプロ選手と組んだ 3 チームが追加されました。前大会では、抽選して初めて顔合わせたチームが 1,950 点を獲得して優勝しています。

下見では各チームとも入念に作戦が立てられ、お互いの走行を確認し合っていました。

優勝したのは、中島トニアシュタール所属の大崎文選手とホースライディングスクエアエボルブルス所属の土田静佳選手の混合チームで、お互いを気遣いながら息の合った走行で 1,900 点を獲得しました。



優勝した大崎文選手(左)と土田静佳選手(右)

【パ・ド・ドゥ】

2 人馬で全国乗馬倶楽部振興協会制定の課目を行う馬場馬術競技です。日本馬術連盟制定の A2 課目レベルの課目と今回から速歩のみの課目を新設して 2 種目で行いました。

出場者には、レジェンドカップでも活躍した障害馬術の武宮匡宏選手（アバロンヒルサイドファーム）と馬場馬術の齋藤裕己選手（ウィルスタッド）のコンビや、日本馬術連盟馬場馬術本部審判部長の安岡嘉彦氏（アバロンヒルサイドファーム）も選手として出場しました。また、同じ乗馬クラブで乗馬を楽しんでいる乗馬愛好者同士や先生と生徒でのコンビなど 12 チームが挑戦してくれました。普段行われない種目ということもあり、多くの観客が詰めかけました。



速歩班優勝の菊池選手(左)と豊原選手(右)



駈歩班優勝の小野木選手(左)と帆苺選手(右)

【東西対抗障害飛越競技】

この競技は、所属するクラブの所在地で東日本と西日本に分かれ、それぞれプロ 2 名、アマチュア 3 名 による団体戦です。勝敗はそれぞれ 5 人馬中、上位 4 人馬の合計減点で競われます。先

にアマチュア選手 6 人が 110cm コースを走行し、その後 120cm のコースに設定してプロの選手 4 名が走行します。出場選手は、東日本：梅木春那・永井めぐみ・堀田亜利紗・森裕悟・仙波勇。西日本：目木紀子・永末奈々・杉崎一美・吉岡隼・中村洋子。

過去、東日本が 4 勝、西日本が 1 勝という対戦成績。西日本の先行で、西・東と交互に走行しました。東日本の先鋒が真逆の経路違反で失権してしまい、東日本の後続の選手は失敗することが許されなくなりました。それぞれのアマチュア 3 名、プロ 1 名が走行を終え、この時点で東日本の 3 名の合計減点が 9 点、西日本は 4 名の合計減点 16 点（西日本の最多減点者の成績は 10 点）で、西日本最後の選手が 1 落下をしてしまうと東日本の最後の選手の走行まで分からなく、逆に減点 2 以内だと西日本の勝利になるという展開になりました。場内が静まり返り、西日本の中村洋子選手（北勢ライディングファーム）がスタートしました。一つ一つ丁寧に障害物を飛越し、タイム減点 2 でフィニッシュラインを通過して、東日本の選手の走行を待たず、3 年ぶり 2 回目の勝利となりました。



後列は優勝した西日本チーム

（左から永末・杉崎・目木・中村・吉岡の各選手）

前列は東日本チーム

（左から森・堀田・梅木・仙波の各選手）

【親睦会】

フェスティバルの初日に馬事公苑講堂にて選手、役員、関係者合わせて約 250 名のご参加をいただき親睦会が行われました。

乗馬愛好者同士の親睦を深めることを目的に、様々なゲーム等も行いました。また、会の途中で「レジェンドカップ」の出場者と投票してくださった方の抽選会やインタビュー、そして生バンドを入れてのダンスパーティーもあり、競技会の他にも大いに盛り上がり、楽しいひと時を過ごしていただけたと思います。



各種ゲームを楽しむ参加者



一発芸も飛び出し、最後はフィンランドのフォークダンス「ジェンカ」で締め括る

以上のように、プロ（乗馬指導者）、アマ（乗馬愛好者）問わず、選手や競技役員、また乗馬クラブ相互の親睦が深められ、さらには馬術競技を通して多くの方々に乗馬の魅力を伝えられた大会となりました。2020年の東京オリンピックを見据えて、更なる乗馬ファンを増やせるようなイベントを展開したいと思っております。次回は、平成27年5月29日（金）～31日（日）に御殿場市馬術・スポーツセンターにて開催を予定しております。

最後になりましたが、ご協賛いただきました各企業と、出場選手ならびに会場であるJRA馬事公苑と大会運営にご尽力賜りました方々に深く感謝申し上げます。

なお、上記のジャパンホースフェスティバルの様子は日本馬術連盟のホームページにて動画（ユーストリーム：<http://www.ustream.tv/recorded/55698227>）でご覧いただけます。

また、競技結果は、

[「指導者競技会全結果」](#)、[「フェスティバル全結果」](#)よりご覧ください。

photo



パ・ド・ドゥ 嶋崎選手(左)と安岡嘉彦審判員



武宮匡宏選手(左)と齊藤裕己選手(右)のコンビ

